

聖霊の賜物

使徒言行録 2 : 1 - 4

コリント一 12 : 4



司祭 ヨハネ 井田 泉

2019年6月9日 聖霊降臨日

奈良基督教会にて

今日は聖霊降臨日です。礼拝堂の雰囲気はいつもとは違います。何が違うか。目で見られるとおり、赤の布が用いられています。祭壇のフロントルも、聖書朗読台の布も、説教壇の布も、そして司祭のストールも赤です。

今日からおよそ 50 日あまり前、赤を用いた礼拝が二度行われました。一度は、復活前主日（棕櫚の主日）。もう一度は聖金曜日（受苦日）。これらはいずれもわたしたちの救いのための主イエスの受難、とりわけ十字架の上で流された血を示していました。

けれども今日、聖霊降臨日の赤は別の意味を表しています。それは、神の燃える愛、神の愛の炎を示しています。

今からおよそ 2000 年前の日曜日。復活の主イエスを天に送ってから 10 日後の主日。人々が集まって祈っていたとき、聖霊の火が降り^{くだ}ました。神の愛の火が炎のように上から降って来て、一人ひとりの上にとどまった。集まって祈っていた人々の心は神の愛の火を受けて熱く燃えました。使徒言行録に校記されていました。

「2:1 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、2 突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。3 そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。4 す

ると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しました。」

これが教会を誕生させました。こうして福音の伝道が始まりました。聖霊の火は世界に広まり、日本に至り、奈良のこの地に至りました。聖霊の火が燃えたので、聖霊の働きに動かされたので、聖霊の賜物をいただいたので、ここに教会が成立し、やがてこの礼拝堂が建設されることになりました。聖霊の火が燃えて、人々の心がそれによって燃やされたので、ここに信仰の共同体である教会が成立し、祈りの家である礼拝堂が建設されました。その歴史、そのつながりの中にわたしたちはいるはずなのです。

ところで最初の教会を誕生させた聖霊の火は、三つのことを人々にもたらしました。

第1は、人々の心を喜びで満たした、ということです。何がうれしかったのでしょうか。

イエス・キリストがはっきりとわかったのです。イエスさまが生まれて生きて死んで復活されたことが、わたしたちの救いであり希望であるということがわかった。イエスの声、イエスのまなざし、そしてイエスの存在そのものがわたしたちの前に、わたしたちの傍らに、さらにわたしたちの内側に臨んでおられ

る。イエスが生きておられるのでわたしたちも生きることができる。神の愛を、イエス・キリストにおいて決定的に知ったのです。

聖霊の火がもたらした第2のことは何でしょうか。それは今日の使徒言行録の続きに記されています。ペテロはイエス・キリストの十字架と復活を、集まってきた人々に語りました。

「2:37 人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、『兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか』と言った。」

「大いに心を打たれ」と訳された言葉は、端的に言えば「心突き刺された」ということです。十字架に釘打たれて血を流すまでに人を愛されたイエス・キリストの前に立ったとき、自分がいかに間違った生き方をしてきたかを、人々は痛切に感じたのです。

それまで人々は怠惰であったかもしれないし、反対に熱心であったかもしれません。積極的であったかもしれないし、反対に消極的であったかもしれません。自分を誇って高慢であったかもしれないし、反対に自分を卑下していたかもしれません。けれども人々は罪を知りませんでした。自分に固執することは知っていたけれども、自分が砕かれるということは知りませんでした。

しかしペテロの言葉をとおしてイエス・キリストを知ったとき、自分の過ち、自分の破れ、神への背きを知った。人を愛する、大切にすることということを自分が知らなかったことを知った。そのような古いままの人々の心を、神の愛の火は焼いた。聖霊は愛の火によって清めたのです。これが第2のことです。

「2:38 すると、ペテロは彼らに言った。『悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。』」

この日、イエスを信じて洗礼を受け、新しい人として出発した人は3000に達したと言われます。ここのペテロの言葉に注目したい箇所が一つあります。

「**イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます**」

洗礼をとおして受けるのは聖霊だということです。洗礼は神の愛の火をいただくことなのですが、そこに大切なものが含まれています。

ここで神の愛の火がもたらす第3のことがはっきり示されます。神の愛の火は、恵みの賜物、聖霊の賜物を一人ひとりに与える、ということです。

今日の使徒書にこう言われていました。

「12:4 賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。」

神の愛の火である聖霊は、一人ひとりにそれぞれ良き恵みの賜物をお与えになります。わたしたちはこれを受ける。いただく。すでに受けているし、さらにそれをはっきり知って、これを神さまの人々のために生かすようになる。神の愛の火がそれをさせてくださいます。

今日、わたしたちはここに3名の洗礼を受ける方々を与えられました。これは聖霊が働いてくださる証拠、神の愛が燃えている事実の表れです。

洗礼を受けられる方々とともに、わたしたちも新しく聖霊を受け、神の愛の火をいただいて、イエス・キリストを知って喜びましょう。自分にかたくなに留まるのではなく、心を砕かれて神さまから赦しの恵みをいただきましょう。そして、一人ひとりに与えられる聖霊の賜物を感謝して受けて、それを喜びつつ、神と人のために生かし用いましょう。

どうかそのことを今日、この聖霊降臨日に、またこの日から新しくずっと後の日まで、聖霊がわたしたちにそうさせてくださいますように。